

「大学卒業後、臨時採用の小学校教諭を経て結婚しました。その後すぐに夫が地方勤務になり、仕事を辞めてついていきました。そこで長女と二女を出産。学生とのきの仲間内では結婚も出産も早く、周りが社会的に活躍している中、地方暮らしで子育てしている自分は……とつい友だちと比べて悶々としていました。ちょうど男女雇用機会均等法世代で、同期の仲間は総合職になってバリバリ仕事をしていますから」

幼子を抱っこしながら 仕事がしたいと 悶々とする日々

全国を飛び回って取材を行い、人々の声や思いを形にして発信する。得意分野は食に関すること。

専門分野をいかし、教育機関の先生と接することも多い。フリーランスから法人化し、順調に事業を拡大しているように見えるが、そこにはさまざまな思いや葛藤があった。

その後、夫の転勤で東京に戻り、都内でプランニング会社に就職。子育てしながら働くことに慣れてきた矢先、予定外の妊娠で三女がお腹に。

この出来事が組織に属さない働き方を考えるきっかけになった。「不規則な勤務の夫はあてにならないし、3人の子どもを抱えて働き続けるにはフリーランスにならないし、自宅を仕事場に切り替えました。そんなとき、ローカル広報紙で編集の仕事を見つけたので、これだ！と飛びついたんです。ボランティアスタッフのような感じでしたが、とにかく出版にかかわることがしたかったし、会社とつながっていたかった。そこで編集の基礎を一から教えてもらいました。知人の紹介などで少しずつ仕事を増やしていき、数年後にはかかわっていたNPOと共同で事務所を借りました。その3年後に法人格を取得。単独で事務所を構えて今に至っています」

越智直実 (出版プロデューサー・編集プロダクション経営)

専門分野でチャンスをつかみ 細くても長く続ける

大学卒業後、臨時採用の教員、プランニング会社勤務を経て、フリーランスのライター・編集者に。広告代理店から請けていた仕事がフリーでは難しくなったことから、法人化にふみきり有限会社を設立。都内に事務所を構え現在に至る。3人の子どもたちは皆、独立し結婚した。

法人化することで 得た信頼で ステップアップ

子どもたちもまだまだ手がかかる一番忙しい時期、法人化したのにはわけがある。取引先が法人にしか発注しないということになり、仲介によってマージンを取られるようになったからだ。会社を経営していくのは社会的責任もありとても迷ったが、今後も仕事を獲得していく上ではその価値がある、と判断した。

「子育ては楽しいし子どもたちもかわいかったけど、一方で仕事も軌道に乗ってきて、それを手放し